

今回のスイス訪問はとても実りあるものになりました。

UNIやYWCAの訪問では多くの国の方々と交流することができました。特にYWCAのグンボズバンダ書記長の「若い世代の人たちに勇気と決意をもって活動を続けてほしい」という言葉は、とても励みになりました。また平和を願う気持ちは国や人種、宗教、言語の違いを超えて1つであるということを実感しました。

国連欧州本部の軍議会議では、私たちの代表スピーチに対して各国から私たちの活動への期待の言葉をいただきました。その中で中国から「原爆投下に至るまでにどのようなプロセスがあったのか、日本は被害者である前に、侵略や植民地支配など加害者でもあったという歴史も忘れないでほしい」という話がありました。私たちはこのような意見を真摯に受け止め、原爆投下に至った経緯についても考えていきたいと思えます。同時に非戦闘員である多くの国民の命を一瞬にして奪い、後世にまで甚大な影響を及ぼした原子爆弾の恐ろしさと核兵器の非人道性を、唯一の被爆国である日本で生きる私たちがこれからも訴えていく責任があると改めて感じました。

また今回の訪問で私が一番印象に残ったことは国連軍縮局やNGOの各組織でスピーチを行なったことです。自分の想いを精一杯伝えることができたと思えます。スピーチに対して、「核エネルギーが存在すること自体が脅威になりうる。福島原発事故はこれからの未来に向けて問題提起になったのでは。福島に住む人たちが核エネルギー利用の恐ろしさを訴えるととても説得力がある」といったお言葉をいただきました。福島原発事故を繰り返さないために原発の廃止を呼びかけていくことが福島から選ばれた私たちにできることだと思います。

最後に同じ目標をもって活動した平和大使の大切な仲間と支えてくださったサポーターの方々、署名をはじめ応援してくださったたくさんの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも福島の地から平和の種まきをがんばりたいと思えます。